



くまあやこ
の
てん
が
ほ
ろ
い
ち
の
あ
い
し
な
さ
★

作 工藤 直子
イラスト くま あやこ

ふたりがであった

なにもない海だ。

波もない。月もない。

ただ、空いちめんに、ぎんのこなになって、

星がちるばかりだ。

海のそこも、しずかだ。

魚はねむっている。



(ぽちゃん)

ちいさな音がした。

(ぽちゃん ぽちゃん)

またつづけてふたつ、音がした。

みると、ビロードのような、いるかがねごろんでいる。

いるか「ああ。星がいっぱい。．．．なんでしずかなんだろう。

さびしいくらいだ。さびしいくらいしずかだと、

コドクが好きなボクでも、だれかとおちやをのみたくなる。」

いるか「一、二、三、四、五．．．」

いるかは、星をかぞえながら、

ゆるゆる泳いだ。



(コッソソ)

いるか「あっ、いたっ！」

ゆるゆる泳ぐいるかのあたまが、なにかにあたった。

くらくてよくわからないが、くろいカベのようなものである。

用心ぶかくながめていると……。



くじら「ああ。星がいっぱい。……なんてしずかなんだろう。

さびしいくらいだ。さびしいくらいしずかだと、

コドクが好きなボクでも、だれかとビールをのみたくなる。」

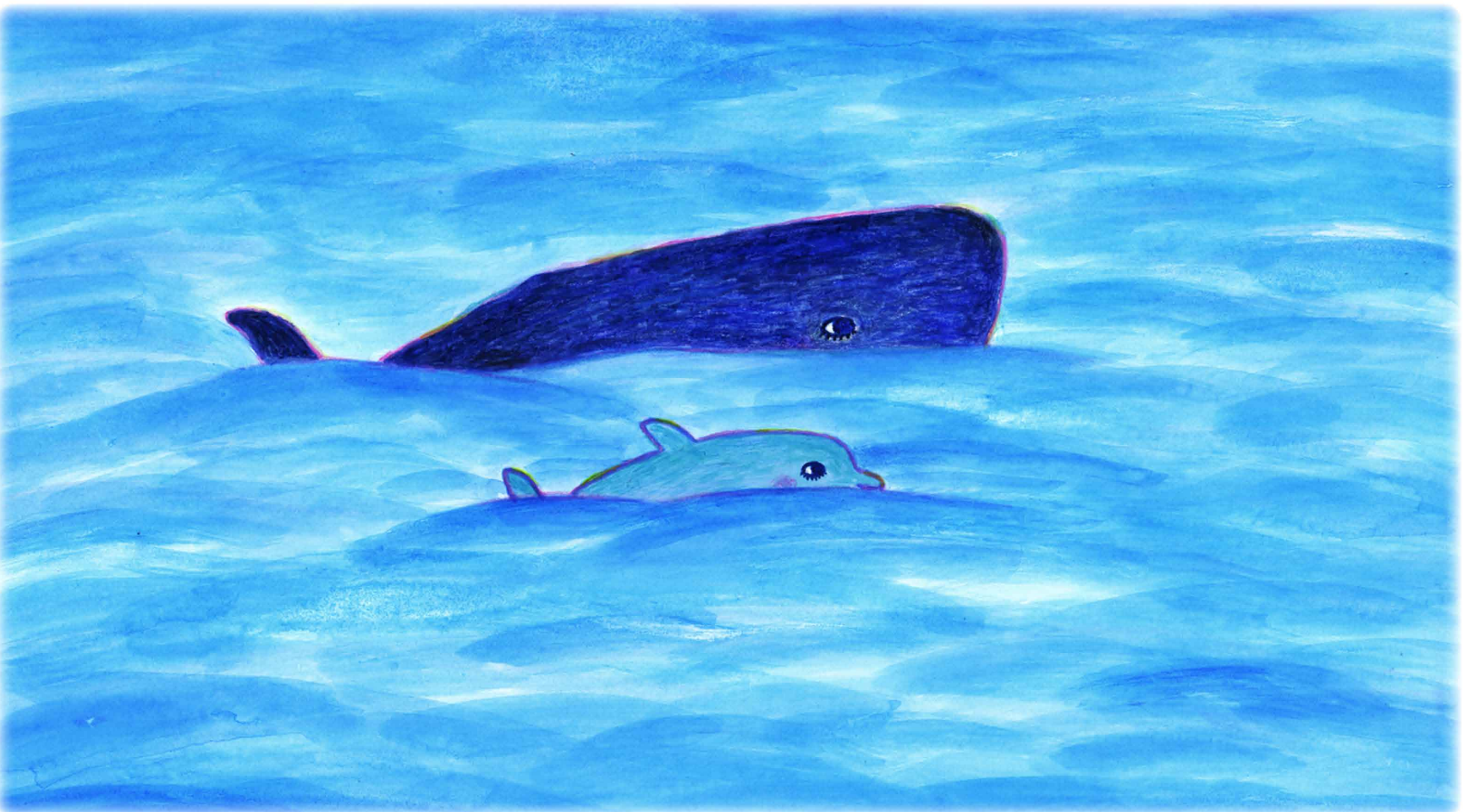
いるか「ビールをのみたくなるところだけが、ちがうけれど、
あとは、ボクとおなじだ。」

そこでイルカは、声のした方へ泳いでいって、はなしかけた。
いるか「ボクといっしょにのまない？ ボクは、あんたと
同じ気もちのいるかです。」

くじら「のみましょう。ボクは、きみと同じ気もちの
くじらです。」

そこでふたりはまず、いるかのところへいっておちゃをのみ、
つぎに、くじらのところへいってビールをのみことにした。





いるか・くじら「ロドクもいいが「いっしょ」もわるくないな
ふたりとも、そう思いながら、泳いでいった。

ちょうちよの船 ふね

雲がもり上がって、まぶしい日である。

くじらが、うとうととしているよ、

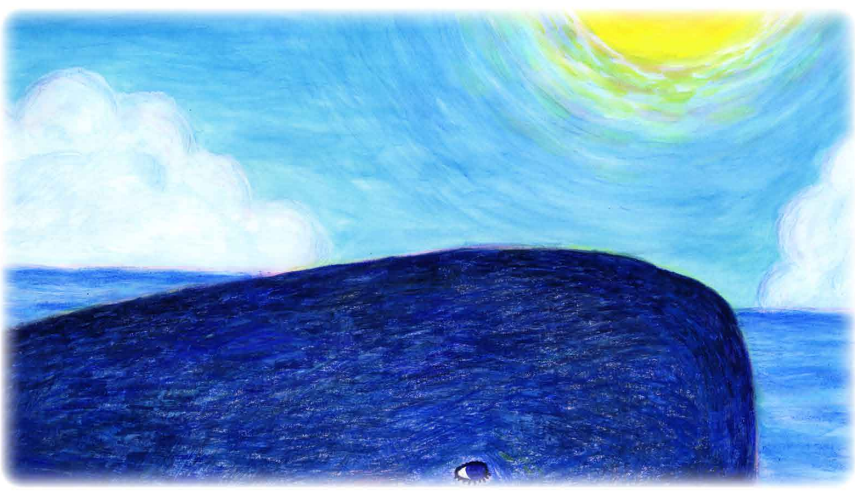
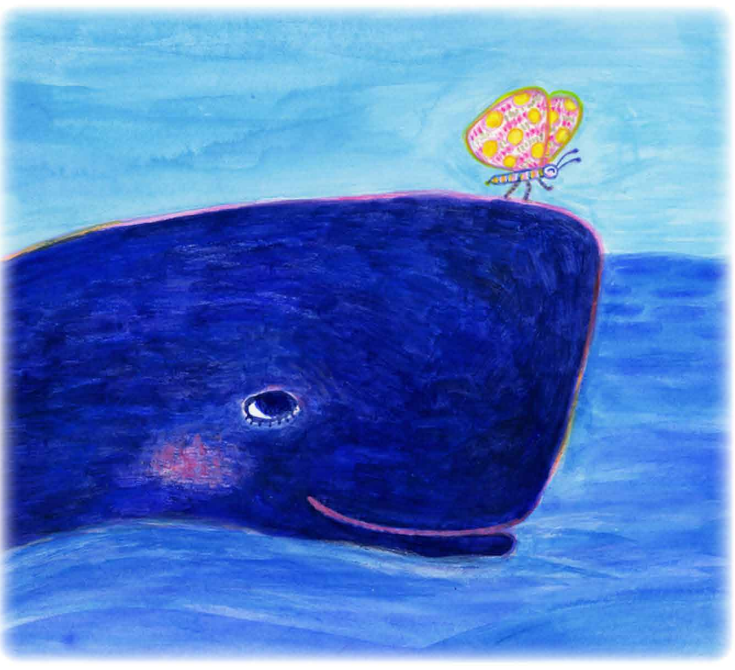
ちょうちよ「たすかった。岩がある。」

くじら「ボクは、岩ではなくて、くじらですよ。」

ちょうちよ「わたしは、長いたびでつかれたちょうちよです。

ちよつとやすませてください。」

くじら「べつそべつそ。」



くじらは、ちょうちょをあたまにのせたまま、
いるかに、みせにいくことにした。

いるか「ここから、またとんでいくのは、たいへんだね。
ぼくたちが船ふねになって、島まではこんであげようか。」

くじら「そうだね。それがいい。」





ちようちょは、ぶじ島へついた。

そして、何回もおれいをいって、林のおくへきえていった。



いるか「ちようちよが、あたまにとまっているとき、
あんたによくあったなあ。」

くじら「そうかい。きみにもよくにあったよ。」

いま、あんなリボンがほしいな、と思っていたところなんだ。」

いるか「ほしいね。……リボン、ふたつ、つくろうか。」

くじら「うん。つくろう。」

リボンのことを思うと、はやくうちへかえりたくなり、
ふたりの泳ぐスピードが、すこしあがった。

だれかな？

たいくつするとくじらも

ときどき島にぼける



(島のくねもろ)

するとたちまち
くじらのせなかに川があらわれ、
きぎがしげり、花がさき
風がそよぎ、雲などもうかんだりする



おや鳥 「オトナシクシナイト巢カラオチルヨ」と
おや鳥がヒナをしかる声も聞こえるのだ

—— おだやかな うちゅうを せおって

くじら うっとりして

うつらうつら うつらうつら

さて いるかは

なににばけたいか？

夜の空はすべすべと気もちよいから

いるかは三日月にばけるのがすきだ。



たとえば今夜の三日月

あれはいるかだな

いつもよりすこし ぎんの色がこい

いつもよりすこし ふちがまるい

いつもよりすこし ふるえている



—— クスクスわらうので

ふるえている

うまくばけてうれしくて

クスクス クスクス

いるかの誕生日

たんじょうび



くじらは朝はやく、いるかのところへ
しょうたいじょうをもつていった。

くじら「おはよう、いるか。」

いるか「おはよう、くじら。」

くじら「しょうたいじょうをもつて来たよ！」

(せきばらい)

きょう、イルカの

たんじょうびの おいおいをします。

ゆうがた六じに

ぼくのうちへきてください」

いるかは、^{たんじょうび}誕生日によばれるしたくをした。

いるか「こんばんは、くじら。」

くじら「いらっしやい。待ってたよ。」



ビールをのみ、おちゃをのみ、

ごちそうをたべているうちに、空がむらさき色になった。

くじら「そろそろだ。」

いるか「なにが？」

くじら「……ちよっと、海のうえにいらんじ

いるか、目をとじて。」

いるか「ふうん。では、ほら。」

くじら「もういいよ。」

いるか「わっ！」

くじら「きょうは、一年でいちばんきれいなまん月の日なんだ。

この、ひかりの道をあげたくてね、

だから、きょう、たんじょうびいわ誕生日祝いをしたの。気にいってくれた？」

いるか「はー。気にいったともさ！

ありがとう、くじら。」

くじら「それは、よかった。」

夜もふけた。

海のうえには、くじらが

ろうどくする詩しがひびきわたり、

それにあわせて、いるかが、

たかくたかくとぶのがみえる。



おわり